

論文審査の結果の要旨

報告番号	博(医歯薬)甲第 1590 号	氏名	陶山 弘暉
学位審査委員	主査	角 美佐	
	副査	澤瀬 隆	
	副査	住田吉慶	
論文審査の結果の要旨			
<p>1. 研究目的の評価</p> <p>近年、薬剤関連顎骨壊死 (MRONJ) に対して保存的治療よりも外科的治療を推奨する報告が増えてきたが、具体的な骨切除範囲の決定方法についてはこれまで報告はない。本研究は術前の CT 画像所見より MRONJ 手術における適切な骨切除範囲について決定しようとするものであり、研究目的は妥当である。</p>			
<p>2. 研究手法に関する評価</p> <p>過去の下顎骨 MRONJ で手術を受けた 206 例 (258 手術) について、術前 CT 画像所見を詳細に観察し、かつ術前後の画像の比較からどの範囲を切除したか調査し、治療経過との関連について統計学的に解析を行った。また区域切除例の一部から骨内の細菌や真菌について real-time PCR で定量的解析を行った。これらの研究手法は妥当であると評価できる。</p>			
<p>3. 解析・考察の評価</p> <p>骨融解部、間隙型・不規則型骨膜反応部、混在型骨硬化部からは細菌や真菌が検出され、感染性の病変であることが明らかとなった。術後の CT 画像よりこれらの部位を残存させた手術では有意に再発率が高くなっており、MRONJ 手術においては骨融解部だけではなく間隙型・不規則型骨膜反応部や混在型骨硬化部も切除範囲に含めることが必要であることを初めて明らかにした。一方で 206 例中 11 例は術前の CT で骨融解をまったく認めない非骨融解型 MRONJ であり CT から骨切除範囲を決定することは不可能であった。非骨融解型 MRONJ に対する手術法の確立は今後の課題であることも明らかとなった。</p>			
<p>以上のように本論文は MRONJ 手術における適切な骨切除範囲の決定方法について初めて明らかにしたものであり、MRONJ 患者の治療に貢献するところが大きいと思われる。これらのことから、審査委員は全員一致で博士 (歯学) の学位に値するものと判断した。</p>			